

令和7年度第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会  
資料一覧

No.1 次第・名簿(A4判 表裏印刷1枚)

No.2 席次表 (A4判 表印刷1枚)

No.3 令和7年度 プロジェクト課題 3課題の実績(A4判 表裏印刷5枚)

No.4 令和7年度 プロジェクト課題 3課題の実績 パワーポイント資料  
及び補足資料(A4判 表裏印刷)

No.5 登米農業改良普及センター 令和8年度普及指導計画の概要  
(A3判 表印刷1枚)

No.6 令和8年度 プロジェクト課題一覧(A4判表面印刷1枚)

No.7 令和8年度 プロジェクト課題 新規2課題の計画(A4判表裏面印刷1枚)

No.8 普及活動検討会評価表(A4判カラー紙 表印刷1枚)

# 令和7年度 第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会

日 時：令和8年1月30日（金）

午前10時～正午

場 所：登米合同庁舎2階203会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 委員・職員紹介

### 4 協 議

#### （1）令和7年度プロジェクト課題の活動について

No. 1 「加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築」について

No. 2 「農地整備を契機とした地域営農構想の実現」について

No. 3 「環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立」について

#### （2）令和8年度普及指導計画

・活動方針について A3 概要版

・新規プロジェクト課題について

No.1 次代を担う若手きゅうり農家のステップアップによる生産性向上

No.2 担い手法人の水稻低コスト・省力栽培技術導入による経営安定化

#### （3）総合検討

・普及活動全般に対する意見交換

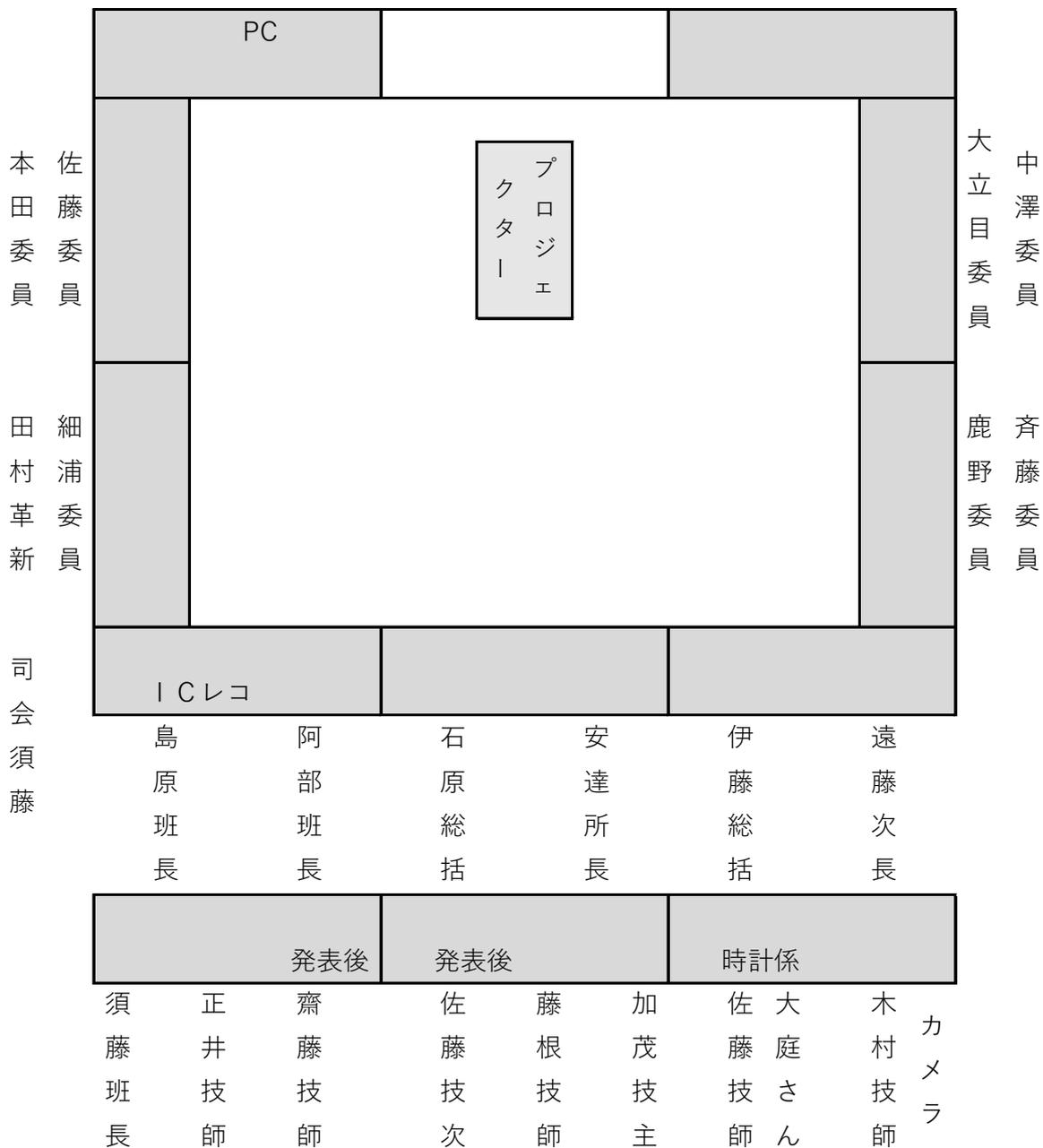
### 5 閉 会

## 出席者名簿

	所 属 ・ 職 名 等	氏 名	備 考
1	登米市農業士会 会長	大立目 忠 徳	
2	有限会社 三菜寿 代表取締役	中 澤 宏	
3	登米市農業委員	鹿 野 昭 子	
4	株式会社 登米コミュニティエフエム 代表取締役	斉 藤 恵 一	欠席
5	H S 経営コンサルティング株式会社 代表取締役	本 田 茂	
6	登米市産業経済部 次長兼産業総務課長	佐 藤 貴 光	
7	みやぎ登米農業協同組合営農部 営農企画課長	細 浦 剛	
8	宮城県農政部農業振興課	田 村 亘	
9	登米地域事務所農業振興部 地域調整班 次長（班長）	島 原 弘 昭	
10	登米農業改良普及センター 所長	安 達 芳 則	
11	" 総括次長	石 原 寛 之	
12	" 総括技術次長	伊 藤 尚 美	
13	" 技術次長（経営支援担当）	遠 藤 弘 樹	
14	" 先進技術班 技術次長（班長）	阿 部 香	
15	" 先進技術班 技術主査（副班長）	加 茂 純 子	
16	" 先進技術班 技師	正 井 佑	
17	" 先進技術班 技師	齋 藤 健 多	
18	" 先進技術班 技師	藤 根 裕 太	
19	" 先進技術班 技師	佐 藤 優 衣	
20	" 地域農業班 技術主幹（班長）	須 藤 邦 彦	
21	" 地域農業班 技術次長	佐 藤 聖 一	
22	" 地域農業班 技師	木 村 優 太	
23	" 地域農業班 会見年度任用職員	大 庭 康 彦	

令和7年度第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会 座席表

スクリーン



入口

## Ⅱ 普及指導員活動計画

### 1 プロジェクト課題一覧表

No.	プロジェクト課題名	計画期間	対象（対象農家・地域名等）	進行管理担当班 担当者名
1	加工用ばれいしょ生産中・ 長期計画策定と生産体制構築  <「園芸振興」関連課題>	令和6年度 ～ 令和8年度	登米ぽてと組合（9経営体）	【先進技術班】 ◎齋藤健多 石原寛之 伊藤尚美 正井 佑 佐藤優衣
2	農地整備を契機とした地域営 農構想の実現  <「園芸振興」及び「地域計画」 関連課題>	令和7年度 ～ 令和8年度	上沼桜場地区担い手経営体 （4法人（法人設立予定の1 個別経営体含む））	【地域農業班】 ◎佐藤聖一 安達芳則 須藤邦彦 正井 佑 木村優太
3	環境負荷低減型水稻乾田直 播栽培技術の確立  <「みどりの食料システム戦略」 及び「アグリテック」関連課題>	令和7年度 ～ 令和8年度	有限会社かわつらグリーンサ ービス、農事組合法人SK美 野里農産	【先進技術班】 ◎藤根裕太 遠藤弘樹 阿部 香 加茂純子 佐藤優衣

◎：チームリーダー

# 更なる加工用ばれいしょの生産拡大・振興に向けて

課題名 加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築

対象 登米ぼてと組合（9経営体）

活動期間 令和6年～7年度

## 1 背景・ねらい

登米地域は、平成29年ごろから実需者との契約栽培が始まり、令和3年には「登米ぼてと組合」が設立され、組織的な加工用ばれいしょ栽培が始まった。登米ぼてと組合構成員は栽培面積や経営規模がさまざまであり、ほ場整備を契機に参入した生産者も含まれる。

普及センターでは、これまでも令和4年度から令和5年度の2か年にわたってプロジェクト課題で栽培技術向上を支援し、一定の成果を得ることができた。一方で、登米地域で栽培する場合、現行のマニュアルでは定植時期が早すぎることによる病害の発生や、水田地帯の土壌の特性による肥料不足等、栽培上の新たな課題が確認され、登米地域に合わせた作業適期の検討や土づくりの必要性が生じてきている。

また、今後の方向性と将来像を生産者自らが定めた「加工用ばれいしょ生産中・長期計画」を作成して、支援を行う関係機関の役割を明確化し、生産体制を構築することが重要と考えられることから、これらの活動の支援を行った。

## 2 活動内容

### ◎組合活動・体制構築支援

今後のばれいしょ生産に関する会議を開催し、中・長期計画策定に向け、出荷体制の整備や面積拡大・新規栽培者確保など、ばれいしょの生産振興に向けた取組方向について、組合員および関係機関と検討した。また、JA、カルビーポテト株式会社と連携し、現地検討会や実績検討会、種芋消毒共同作業等各種組合行事の開催支援を行った。

### ◎栽培技術向上支援

各生産者が適期に植付けができるよう、萌芽処理及び種芋切りの適切な実施を支援した。植付け後は個別巡回を行い、額縁明渠や畝前の溝切りなどの排水対策や、培土作業の適期実施を指導した。生育調査を行い、生育の遅れが認められたほ場には葉面散布による追肥の指導を、病害虫や雑草の発生が確認されたほ場には防除の指導を行った。

### ◎技術・経営評価支援

生育調査、比重調査および品質調査により、生育・品質に関するデータを収集し、各データの比較・評価および要因分析を行った。また、各組合員から作業内容の聞き取りを行い、得られたデータを比較することで、効果的な作業人数や作業の組み合わせについての評価・検証を支援した。ばれいしょの収穫及び選別専用機械の導入に向けて、既存の生産者の機械所持状況や作業体系を調査し、生産者間で共有を図った。また、機械導入に経費試算シート作成支援を行った。

## 3 活動の成果とポイント

### ◎組合活動・体制構築支援

中・長期計画の策定を通じて、産地として目指す将来像と重点的に取り組む内容を、関係者で共通認識として整理できた。さらに、取組の進め方をロードマップで見える化し、関係機関の役割分担と連携体制を明確にしたことで、取組を着実に進めていくための基盤を構築した。

組合活動を重ねる中で、生産者間の連携が進み、安定生産に向けた基盤が着実に整ってきた。具体的には、栽培技術に関する意見交換の活性化により生産者同士の結束力が高まり、データに基づく課題共有を通じて、次年度の取組方針を整理することができた。また、共同作業の推進により省力化が進み、品質の均一化と生産の安定につながった。

## ◎栽培技術向上支援

萌芽処理および種芋切りの適切な実施を支援し、各生産者の適期植付けにつなげた。また、植付け後の巡回指導と生育調査に基づき、排水対策・培土・追肥（葉面散布）および病害虫・雑草防除の徹底を図ったことで、生育の安定化と収量・品質確保に向けた管理改善が進んだ。

巡回指導を行う中で、前年度までの課題であった現行マニュアルと地域条件の不一致（水稻作業と重なり、培土が遅れやすい等）に加え、定植・培土・排水対策等の作業時期や判断のばらつき、管理方法の違いといった現場課題が確認された。これを踏まえ、作業・判断の目安を整理するため、登米地域の栽培実態に即した「登米地域版加工用ばれいしょ栽培暦・手引き」を作成し、工程表等で作業・管理の要点を見える化することで、関係者間で共通理解を持てるようにした。

## ◎技術・経営評価支援

生育調査、比重調査および品質調査の結果を総合的に整理・比較することで、圃場ごとの生育差や比重・品質のばらつきの傾向と要因を捉えることができた。あわせて、改善すべき重点ポイント（培土・排水・収穫適期等）を整理し、次作に向けた対策の絞り込みと指導内容の具体化につなげた。

組合員の作業内容を聞き取り、作業工程や作業人数、作業の組み合わせを整理して比較したことで、効率的に進められている作業体系の特徴や、適正な作業人数の目安が見えた。

機械所持状況と作業体系を調査・整理し、生産者間で共有したことで、産地内の現状と課題が明確になり、導入に向けた検討を進めやすくなった。さらに、経費試算シートの作成支援により費用の見通しが立ち、導入可否の判断材料が整った。



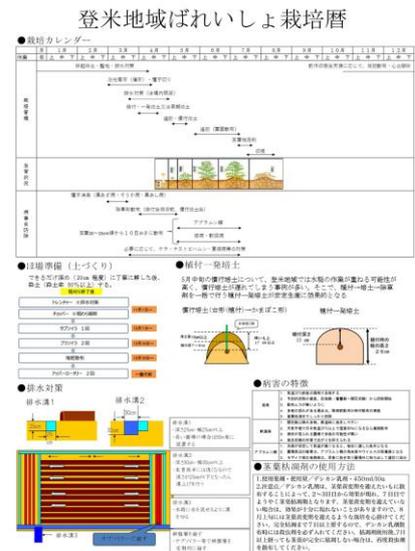
現地検討会



実績検討会



加工用ばれいしょ中・長期ロードマップ



登米地域版ばれいしょ栽培暦

## 4 対象者の意見

今回の中・長期計画の策定を通じて、産地として目指す方向性や今後の取組の進め方が整理され、見通しを持ちやすくなった。あわせて、栽培暦や手引きで作業時期の目安が見える形になり、日々の栽培管理にも活かしやすいつ感じている。次年度以降も関係機関と連携しながら、安定生産と面積拡大に向けて取り組んでいきたい。

登米ぽてと組合員

- 普及センター：登米農業改良普及センター
- 課題チーム員：齋藤健多、伊藤尚美、石原寛之、正井佑、佐藤優衣
- 執筆者：齋藤健多
- 協力機関：JAみやぎ登米、登米市、カルビーポテト株式会社

(様式1)

項目番号 I-1

# 担い手の法人化と高収益作物の安定生産を目指して

課題名 農地整備を契機とした地域営農構想の実現

対象 上沼桜場地区担い手経営体（4法人（法人設立予定の1個別経営体を含む））

活動期間 令和7年度

## 1 背景・ねらい

登米市中田町の上沼桜場地区では、令和元年から地域の将来像についての話し合いが行われ、令和3年に地域営農構想をとりまとめた。また、構想実現のため、農業競争力強化農地整備事業（受益面積51.5ha、受益者数92人、予定工期R8～R16）の令和8年採択を目指して、地域の合意形成を進めてきた。

農地整備事業に関する促進計画書では、新規設立予定の1法人を含む4法人が担い手経営体として位置付けられ、また、新規設立法人が受益面積の7割以上を担う計画であることから、経営計画の検討や法人化に向けた支援が求められている。さらに、農地整備事業を契機に園芸作物の導入による水稻依存からの脱却を目指しており、園芸作物の栽培技術習得に向けた支援が求められている。

## 2 活動内容

### ◎法人設立支援

法人化を目指す個別経営体に対し、聞き取りにより課題整理を行いながら、JAや県農業経営・就農支援センターと連携し、課題解決に向けた専門家派遣等を行い、法人化が円滑に進むよう支援した。また、法人化に関する優良事例の視察研修を行い、将来の経営計画を具体的にイメージできるよう支援した。さらに、経営規模拡大に伴い今後導入を予定する稲作の省力化技術やスマート農業技術について、各種研修会への参加を誘導し、情報収集の機会を提供した。

### ◎高収益作物の栽培支援

令和5年度から加工用ばれいしょの試作に取り組む担い手経営体に対し、カルビーポテト株式会社と連携しながら、安定生産に向け栽培技術の習得を支援した。具体的には、登米市内の生産者で構成する登米ぼてと組合（9経営体）に対する活動支援に合わせ、生育状況等の各種調査、肥培管理の巡回指導、現地検討会や実績検討会を行いながら、試作の振り返りや次作に向けた対策の検討を支援した。

### ◎担い手会議の開催支援

ほ場整備事業推進委員会に参加し、地域の課題について情報収集した。当初、担い手の話し合いの場の提案を計画していたが、担い手間で主体的に話し合う体制ができており、関係機関からの要望もなかったことから、積極的な働きかけは行わなかった。

## 3 活動の成果とポイント

### ◎法人設立支援

専門家（中小企業診断士等）による相談会への参加や2回の専門家派遣（税理士、社会保険労務士）により、法人化する上での課題や疑問点等が解消されたことで円滑に準備が進められ、令和8年2月には法人が設立されることになった。

視察研修では、法人化後の目標とする経営内容（作物、規模、労働力）に類似する経営体を視察先に選定したことで、法人経営の具体的なイメージの他、経営継承の手法についても実例を学ぶことができた。また、後継者も一緒に参加したことで、将来の方向性を親子で共有することができた。

### ◎高収益作物の栽培支援

加工用ばれいしょの作付けは3作目となり、登米ぼてと組合の活動支援を通じた技術指導により基本技術の習得は着実に進んだ。特に、排水対策の徹底や播種から収穫に至る各種作業が遅延なく適期に実施されたことで、収量は目標の3t/10aを超える3.1t/10aとなり、組合平均2.2t/10aも上回る結果となった。ただし、生育期間の高温・乾燥の影響で、前年より緑化や小玉が多くなり、品質の面ではやや課題が残った。

また、作付け初年目から取り組まれている大型機械（播種機、ハーベスタ）の3戸共同利用と共同作業が定着し、作業の効率化やコスト低減が図られたことで、高収益作物としての加工用ばれいしょの有利性を確認することができた。これにより、令和8年の作付け面積は、今年の70aから90aに拡大される見込みとなった。

### ◎担い手会議の開催支援

担い手会議の開催には至らず、ほ場整備事業推進委員会での情報収集にとどまったが、関係機関と情報共有しながら活動したことで、今後も連携して課題に対応できる協力体制が整った。



担い手と課題整理について話し合い



ばれいしょの収穫作業



ほ場整備事業推進委員会

## 4 対象者の意見

農地整備事業の推進に関して各関係機関から支援をいただき、無事に令和8年度の新規採択が見えてきた。普及センターには法人化へ向けた支援や加工用ばれいしょの栽培指導を行っていただき感謝している。引き続き、支援をお願いしたい。

登米市・上沼桜場地区担い手経営体

- 普及センター：登米農業改良普及センター
- 課題チーム員：佐藤 聖一、安達 芳則、須藤 邦彦、正井 佑、木村 優太
- 執筆者：佐藤 聖一
- 協力機関：登米市、北上川沿岸中田地区土地改良区、JAみやぎ登米、東部地方振興事務所農業農村整備部、登米地域事務所農業農村整備部、宮城県農業経営・就農支援センター

# 環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の 確立を目指して

課題名 環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立

対象 環境負荷低減型水稲乾田直播栽培に取り組む生産法人２法人  
（（有）かわつらグリーンサービス、（農）SK美野里農産）

活動期間 令和７年度～令和８年度

## １ 背景・ねらい

県内最大の環境保全米作付面積を誇る登米地域だが、担い手不足などにより面積は減少傾向にある。一方で、省力化技術である乾田直播栽培への取組が拡大している。乾田直播栽培でも環境保全米の適用を期待する声が高まる中、令和６年１１月「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」において、乾田直播栽培に関する基準が新たに設定（農薬成分１０成分以下、化学肥料由来窒素６kg/10a以下）された。しかし、新たな基準では農薬成分や化学肥料の使用量が制限され、雑草防除や肥培管理など難易度が高まるという課題がある。また、経営体の担うほ場面積の拡大によりほ場の点在化が発生することから、ほ場場所や作業状況の情報共有、各ほ場の生育状況の把握などの効率化が求められる。そのため、スマート農業技術を活用し、安定した収量・品質が得られるよう栽培技術の確立を目指して活動を行った。

## ２ 活動内容

### ◎施肥および除草体系の検証

栽培管理における課題の共有化を図るため、耕種概要の聞き取りや確認作業を行った。新基準に対応した展示ほを２か所設置し、アプリを活用した雑草管理や肥培管理などの栽培技術支援を実施した。また、生育調査結果を生産者と共有し、生育状況の把握と情報交換に努めた。収量・品質調査の結果、移植栽培の環境保全米（Cタイプ）とほぼ同等の収量・品質を確保することができた。今年度の結果を踏まえ、「登米地域の環境負荷低減型水稲乾田直播栽培暦」の素案を作成し、生産者および関係機関と検討を行い、栽培のポイントを整理することができた。さらに、本プロジェクトの取組を「令和７年度宮城県米づくり推進登米地方本部稲作研修会」で紹介し、地域農業者へ広く周知を図ることができた。

### ◎省力化技術の導入・活用支援

栽培管理の高度化に向け、栽培管理システムを活用し、AI解析による適期防除の情報提供、衛星画像から推定される生育状況と生育調査結果について対象者と共有、確認を行った。また、肥料の効率的活用と生育の均一化を目的として、可変施肥を実施した。調査の結果、地力が低い部分に施肥量を多めにしたものの、生育後半に肥料切れが生じ、収量・品質ともにやや低下した。しかし、可変施肥を実施しなければ一層収量・品質が低下したことが想定され、一定の補完効果があったと考えられた。また、省力化技術の導入・活用に向け登米市と共催で「登米地域スマート農業推進セミナー」を開催し、メーカーから営農管理システムの基本操作や活用事例が紹介され、導入および活用について理解が深まった。



可変施肥作業時の様子

■普及センター：登米農業改良普及センター

■課題チーム員：藤根裕太、遠藤弘樹、阿部香、加茂純子、佐藤優衣

■執筆者：藤根裕太

■協力機関：JA全農みやぎ、JAみやぎ登米、BASF ジャパン株式会社、ヤンマーアグリジャパン株式会社、株式会社ビコンジャパン

令和8年度プロジェクト課題及び重点課題の体系について（案）

◆プロジェクト課題

No.	令和7年度	
1	加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築	終了
2	農地整備を契機とした地域営農構想の実現	終了
3	環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立	

No.	令和8年度	
1	【新規】次代を担う若手きゅうり農家のステップアップによる生産性向上	
2	【新規】担い手法人の水稲低コスト・省力化栽培技術導入による経営安定化	
3	環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立	

◆重点課題

No.	令和7年度	
1	登米地域の農業を支える担い手の確保・育成、女性農業者の活躍支援 「農業経営管理」	青年等就農計画作成支援・登米市就農相談会開催支援
		新規就農者のフォローアップ巡回
		女性農業者育成支援、農業経営の高度化や継承等の支援
2	地域計画の実現に向けた支援 「地域計画」	実行できる地域づくりへの支援
		農地整備事業地区における営農体制構築支援
3	登米地域園芸重点品目の生産振興 「園芸振興」	環境制御技術普及支援
		長ねぎ・ピーマンの生産技術支援
		りんごのジョイント栽培技術支援
4	持続性の高い畜産経営基盤の確立及び耕畜連携による堆肥等の有効活用支援 「耕畜連携」	能力の高い優良種雄牛や繁殖雌牛群の造成支援
		飼料用作物・飼料用稲の栽培や給与技術等の支援
		堆肥の有効活用に関する情報提供
5	持続可能な食料システムの構築に向けた支援 「みどりの食料システム戦略」	総合防除技術普及支援
		減農薬・減化学肥料栽培等支援 みどり認定の取得支援

No.	令和8年度	対象
1	青年等就農計画作成支援	就農希望者
	新規就農者の経営安定支援	就農5年以内の新規就農者
	女性農業者育成支援	女性農業者
	農業経営の高度化や継承等の支援	農業経営者、農業法人等
2	実行できる地域づくりへの支援	豊里地区（モデル地区）
	農地整備事業地区における営農体制構築支援	農地整備事業実施地区
3	加工用ばれいしょ生産中・長期計画達成に向けた支援	登米ばてと組合
	若手生産者の技術力向上支援	米山いちご部会
	りんごのジョイント栽培技術支援	りんご生産部会
4	能力の高い優良種雄牛や繁殖雌牛群の造成支援	畜産経営体、土地利用型法人
	飼料用作物・飼料用稲の栽培や給与技術等の支援	
	堆肥の有効活用に関する情報提供	
5	減農薬・減化学肥料栽培等支援	環境負荷低減に取り組む生産者
	みどり認定の取得支援	

農業施策及び普及事業に関する中・長期計画、方針等

みやぎ食と農の県民条例基本計画 (R3-12) (R8.3中間見直し予定)

共創力強化

～ 多様な人材が豊かな未来をつくるみやぎの食と農 ～

I 時代のニーズに対応した県産食品の安定供給 (豊かな食)

- 施策1 県民による豊かなみやぎの食と農への理解と地産地消の促進
施策2 市場ニーズの変化に対応する県産食品の販売力強化
施策3 県民への安全・安心な食料の安定供給

II 次代の人材育成と革新技術の活用による戦略的な農業の展開 (儲ける農業)

- 施策4 環境との調和に配慮した持続可能な農業の推進
施策5 みやぎの農業を支える多様な人材の確保・育成
施策6 先進技術等を活用した農業生産の効率化と高度化
施策7 基盤整備と集積・集約化による農地利用の高度化
施策8 需要に応じた米生産と水田農業の収益力強化
施策9 先進的大規模拠点を核とした園芸産地の確立
施策10 生産基盤の拡大による畜産の競争力強化

III ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築 (活力ある農村)

- 施策11 関係人口と共に創る活力ある農村
施策12 地域資源を活用した多様ななりわいの創出
施策13 野生鳥獣による農作物被害対策の強化とジビエ利活用の拡大
施策14 地域資源の保全管理による営農・農村環境の維持
施策15 農業・農村の強靱化による地域防災力の強化



みやぎ園芸特産振興戦略プラン (R8-12)

先進的園芸経営体と共に切り拓く新しいみやぎの園芸産地の確立
～ みやぎの園芸倍増に向けて ～

- 基本方針1 先進技術を駆使した施設園芸の推進
基本方針2 大区画ほ場等を活用した露地園芸の推進
基本方針3 食品関連産業等との連携による園芸サプライチェーンの構築
基本方針4 園芸産地の発展に向けた多様な人材等の確保・育成

- 【県最重点振興品目】 いちご
【県重点振興品目】 きゅうり、トマト、ほうれんそう、ねぎ類、パプリカ、たまねぎ、キャベツ、えだまめ、ばれいしょ、レタス、せり、さつまいも、ブロッコリー、輪ぎく、スプレーぎく、鉢もの類・花壇用苗もの類、日本なし、りんご、ぶどう
【地域振興品目】 そらまめ、なす、かぼちゃ、ゆきな、にら、にんにく、ピーマン類、トルコギキョウストック、もも

登米地域普及指導基本方針 (R8-12、R8.3改正予定)

I 農業及び農村の将来方向

以下に取り組み、登米地域の地域性を活かした、新たな魅力ある農業・農村の構築を目指す。

- 1 登米農業を担う次代の人材確保・育成と先進技術等を活用した農業生産の効率化・高度化
2 豊かな経営資源を活かした農業生産の拡大や時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農村づくり

II 普及事業で取り組む課題

1 登米農業を担う次代の人材確保・育成と先進技術等を活用した農業生産の効率化・高度化

- (1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援
(2) 新たな担い手の確保・育成と多様な人材の活躍支援
(3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援

2 豊かな経営資源を活かした農業生産の拡大や時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- (1) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援
(2) 園芸産出額への増大に向けた園芸産地の育成・強化支援
(3) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援
(4) 食と農への理解促進と安全・安心な農畜産物生産の取組支援
(5) 需要の変化に対応したマーケットインの生産体制の構築・販路拡大への取組支援

3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農村づくり

- (1) 地域資源や地域の特色を活かした営農・所得確保等に向けた取組支援
(2) 関係機関等との連携強化と合意形成推進による地域農業の維持・発展支援
(3) 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

(県) 協同農業普及事業の実施に関する方針 (R7.11)

- 1 みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化
2 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

(国) 協同農業普及事業の運営に関する指針 (運営指針) 協同農業普及事業の実施についての考え方 (ガイドライン) 通知

普及指導方針

1 登米農業を牽引する活力ある経営体の育成

■認定農業者や農業法人等地域の担い手となる経営体の経営高度化や経営継承等に向けた取組を支援

■新たに農業経営を営もうとする青年等の確保・育成及び女性の活躍に関する取組を支援

2 先端技術を活用した農業生産の高度化、効率化の推進

■収益性の高い農業経営の実現を図るため、土地利用型農業、施設園芸、畜産等の各分野において、アグリテックの導入・定着に向けた取組を支援

■県が整備したRTK基地局を活用する取組を支援

3 豊かな経営資源の活用や環境に配慮した取組による農業生産の拡大や産地の育成

■収益性の高い水田農業の展開や、畜産経営の収益力強化の取組を支援

■園芸産出額の増大を図るため、登米地域の重点振興品目の生産拡大や生産体制の強化に向けた取組を支援

■「宮城県みどりの食料システム戦略推進基本計画」に基づき、環境負荷低減に資する持続可能な農業生産の取組を支援

4 魅力あふれる農業・農村の創造

■地域資源を活かした「なりわい」の創出による雇用機会の拡大や所得確保の取組を支援

■農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮に向けた取組を支援

登米農業改良普及センター 令和8年度普及指導計画の概要

～ 登米の恵みを未来へつなぐ。新時代の「人」と「技」のバトンリレー ～

プロジェクト課題

対象や期間を明確にして効率的、効果的に支援

No1 次代を担う若手きゅうり農家のステップアップによる生産性向上

計画期間 令和8年度～令和10年度

新規

対象 JAみやぎ登米胡瓜部会青年部会員(31経営体)

概要 令和10年きゅうり販売額10億円の目標達成に向け若手生産者の技術力向上、環境制御技術の導入等による収量向上支援を行う。

- 活動事項 ・栽培技術習得支援
・環境制御技術取組支援
・新規生産者確保取組支援



No2 担い手法人の水稲低コスト・省力化栽培技術導入による経営安定化

計画期間 令和8年度～令和10年度

新規

対象 東和町内ノ目地区の担い手法人設立を目指す4人

概要 令和8年度農地整備事業採択予定の東和町内ノ目地区の担い手経営体を対象に、法人の設立、水稲の低コスト栽培技術等の支援を行う。

- 活動事項 ・法人設立支援(事業計画、作業計画検討)
・水稲の低コスト・省力化栽培技術の導入支援
・高収益作物導入支援



No3 環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立

計画期間 令和7年度～令和8年度

対象 環境負荷低減型乾田直播栽培に取組む2法人((有)かわつらグリーンサービス、(農)SK美野里農産)

概要 乾田直播栽培の環境保全米適応に向けて環境負荷低減型の栽培体系を確立する。

- 活動事項 ・施肥及び除草体系の検証
・省力化技術の導入・活用支援



普及センター活動

- ・対象が広範囲、不明確、熟度が不十分な対象も支援
・農業者や地域のニーズに応じて、技術支援、農業経営、農村生活、新規就農等の情報提供、相談活動
・プロジェクト課題への助走、終了課題対象のフォローアップ等
・重要かつ緊急的な課題については「重点活動」として作成

調査研究

- ・各普及指導員が地域の特性に応じて農業に関する高度な技術や知識を組み立てて実証し、成果を普及活動に活用

普及センター活動

重点活動

- (1) 登米地域の農業を支える担い手の確保・育成、女性農業者の活躍支援
(2) 地域計画の実現に向けた支援
(3) 登米地域園芸重点品目の生産振興
(4) 持続性の高い畜産経営基盤の確立及び耕畜連携による堆肥等の有効活用支援
(5) 持続可能な食料システムの構築に向けた支援

一般活動

1 登米農業を牽引する活力ある経営体の育成

- (1) 先進的農業に取り組む経営体の育成支援
(2) 地域農業を担う集落営農組織の育成支援
(3) 生産性の高い土地利用型農業の推進
(4) アグリビジネス経営体等の育成支援
(5) 青年農業者の確保育成
(6) 青年農業者の組織活動支援
(7) 雇用就農者のキャリアアップ推進
(8) 女性農業者の資質向上支援
(9) 生活研究グループ活動支援
(10) 農業士活動支援
(11) 農業情報の発信

2 先端技術を活用した農業生産の高度化、効率化の推進

- (12) スマート農業の導入による安定生産支援

3 豊かな経営資源の活用や環境に配慮した取組による農業生産の拡大や産地の育成

- (13) 安全・安心な農畜産物の生産支援
(14) 地域水田フル活用ビジョンへの支援
(15) 基本技術の徹底による高品質米・良食味米の安定生産支援
(16) 新規需要米等の安定生産支援
(17) 麦・大豆の安定生産支援
(18) 優良種子の安定生産支援(水稲、麦、大豆)
(19) 野菜の安定生産支援
(20) 果樹の安定生産支援
(21) 花きの安定生産支援
(22) 畜産の生産技術支援
(23) 農業生産工程管理(GAP)の取組支援
(24) 環境にやさしい農産物等の生産支援

4 魅力あふれる農業・農村の創造

- (25) 中山間地域の振興
(26) 地域資源を活かした地域活性化支援
(27) 生産者と消費者の相互理解促進活動への支援
(28) 農作物への鳥獣被害防止支援



## II 普及指導員活動計画

### 1 プロジェクト課題一覧表

No.	プロジェクト課題名	計画期間	対象（対象経営体・地域名等）	担当チーム員
1	次代を担う若手きゅうり農家のステップアップによる生産性向上  <「園芸振興」関連課題>	令和8年度 ～ 令和10年度	JA みやぎ登米胡瓜部会青年部 会員（31経営体）	【先進技術班】 ◎正井 佑 石原寛之 伊藤尚美 齋藤健多 佐藤優衣
2	担い手法人の水稻低コスト・省力化栽培技術導入による経営安定化  <「地域計画」関連課題>	令和8年度 ～ 令和10年度	東和町内ノ目地区の担い手法人設立を目指す4人	【地域農業班】 ◎佐藤聖一 遠藤弘樹 須藤邦彦 阿部 香 齋藤健多 木村優太
3	環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立  <「みどりの食料システム戦略」 「スマート農業」関連課題>	令和7年度 ～ 令和8年度	環境負荷低減型水稻乾田直播栽培に取り組む生産法人 （(有)かわつらグリーンサー ビス、(農)SK美野里農産）	【先進技術班】 ◎藤根裕太 安達芳則 遠藤弘樹 阿部 香 加茂純子 佐藤優衣

◎：チームリーダー

(年度様式2) プロジェクト課題計画

課題No. 1			
課題名 次代を担う若手きゅうり農家のステップアップによる生産性向上（「園芸振興」関連課題）			
計画期間	令和8年度～令和10年度		
対象名及び対象者数	みやぎ登米農業協同組合胡瓜部会青年部会員（31人）		
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登米市のきゅうりは、夏秋・冬春きゅうりで国の指定産地になっている。JAみやぎ登米胡瓜部会員は令和7年現在106人で、販売額は令和7年で8億7千万円ほどである。</li> <li>・JAみやぎ登米では、「営農経済事業活性化プログラム」を令和7年9月に策定し、きゅうりを重点品目とし、栽培技術の向上、新規生産者の確保による面積拡大等の取組、環境制御技術の推進により、令和10年までに販売額を10億円とする目標を設定している。</li> <li>・令和6・7年の高温により収量が全体的に落ち込み、胡瓜部会全体の収量は、令和6年は2,877t、令和7年は2,647tと低迷した。</li> <li>・20～40代の青年部員の多くは新規栽培者も多く、10億円達成に向けた販売額の増加に向けては、栽培基礎技術の向上により、令和7年で15.7t/10a（青年部会員平均、JA出荷データより）となっている収量の底上げが必要である。</li> <li>・高収益を見込める環境制御技術について、導入経費が高く一部の生産者にとどまっている。取組の機会を広げるため、低コストで行える環境制御技術の普及拡大が求められる。</li> <li>・県園芸推進課では、「環境と高温に適応した施設園芸展開事業」として、令和8年度から、登米地域をモデルの1つとして、高温対策・環境負荷低減に向けた取組を展開することとしている。地域検討会により施設園芸の課題、状況把握を行い、問題解決に必要な設備や資材の検討を実施し、現地実証ほの設置を行うこととしており、普及センターにおいても、高温対策などで連携した取組を行う。</li> </ul>		
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培基礎技術習得に向けた支援を実施する。</li> <li>・環境制御技術の取組を推進する。</li> <li>・新規生産者の確保による栽培面積拡大の取組を支援する。</li> </ul>		
計画完了時に期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎栽培技術の向上及び環境制御技術の導入が図られ、収量が増加する。</li> </ul>		
担当チーム員	○正井佑、石原寛之、伊藤尚美、齋藤健多、佐藤優衣	進行管理責任者	総括技術次長 伊藤尚美
令和8年度			
成果指標	定性的目標 ・栽培技術における課題が共有され、安定生産に向けた意欲が向上する。		
	定量的数値目標 令和8年度 計画策定時（計画期間3か年） 対象者の10a当たり収量 R7 100% → R8 102% → R9 105% → R10 110%		
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数88日）		
	活動事項 ・栽培基礎技術習得支援（52日） ・環境制御技術取組推進（24日） ・新規生産者確保取組支援（16日）		
関係機関の主な役割分担項目 みやぎ登米農業協同組合（生産者との調整・営農指導） 宮城県園芸推進課（計画調整） 登米市（補助事業導入・調整）			
関連事業名と役割 環境と高温に適応した施設園芸展開事業（園芸推進課）			
県実施方針上の関連項目	1-(3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援 1-(5) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援		
地域基本方針上の関連項目	1-(3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援 2-(2) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援		

## (年度様式2) プロジェクト課題計画

課題No. 2			
課題名 担い手法人の水稲低コスト・省力化栽培技術導入による経営安定化（「地域計画」関連課題）			
計画期間	令和8年度～令和10年度		
対象名及び対象者数	東和町内ノ目地区の担い手法人設立を目指す4人		
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年からの準備を経て、令和8年度に農地整備事業の採択を受ける見込み（事業期間R8～R16 総事業費約12億円 受益面積26.6ha 受益戸数68戸 認定農業者3戸）。</li> <li>将来農地集積を担う農業法人を設立する将来ビジョンを令和2年6月に策定した。</li> <li>将来ビジョンでは、工事完了後、受益面積26.6haの内、約90%が担い手法人に集積され、スマート農機等導入による水稲・野菜（ねぎ、にんにく、トマト）等の生産性向上・省力化を図ることが計画されている。</li> <li>担い手法人設立に向け、認定農業者2戸、兼業農家2戸合計4戸で令和8年1月設立に向けて検討を進めたが、事業目論見書の作成が滞り設立を令和8年12月に延期した。</li> <li>高収益作物は、認定農業者が個人的に加工用トマト、サツマイモの試作に取組んだが、労働力不足や天候の影響により、想定の収量・品質が確保できていない。将来ビジョンに記載されている「ねぎ、にんにく」は地域で栽培されており規模拡大が望まれている。</li> <li>法人の総営農面積は50ha程度を予定（工区内24ha、工区外26ha）。事業完了までは工区外の農地で法人運営するため、水稲の生産性向上と経費削減が重要な課題。</li> <li>地域初の法人設立のため、十分な経営試算・作業計画と、水稲の低コスト栽培、高収益作物の技術指導が求められている。</li> </ul> <p>（前年度までの実施状況と今後の改善方向）※継続課題の2年目以降に記載</p>		
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の設立及び組織運営の支援を行う。</li> <li>水稲の低コスト栽培の導入と技術の安定化支援を行う。</li> <li>高収益作物の栽培技術向上支援を行う。</li> </ul>		
計画完了時に期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>水稲栽培を中心とした法人組織の安定運営が図られる。</li> </ul>		
担当チーム員	○佐藤聖一、遠藤弘樹、須藤邦彦、阿部香木村優太、齋藤健多	進行管理責任者	地域農業班 須藤邦彦
令和8年度			
成果指標	定性的目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>設立される法人構成員の役割分担が明確になる。</li> <li>低コスト稲作技術の選定と高収益作物の栽培技術向上が図られる。</li> </ul>		
	定量的数値目標 低コスト稲作栽培技術の導入（プール育苗、密苗、乾田直播、ドローン防除等） R7 0→R8 0→R9 1→R10 3 （0）		
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数 58日）		
	活動事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>法人設立への支援（26日）</li> <li>低コスト稲作栽培技術の選択・導入支援（14日）</li> <li>高収益作物栽培支援（18日）</li> </ul>		
関係機関の主な役割分担項目 東和土地改良区（農地整備事業推進全般）、JAみやぎ登米（法人設立支援、水稲、野菜等技術支援）、登米市（農地整備事業推進）、宮城県農業経営・就農支援センター（専門家派遣、法人設立支援）、農業振興課（スマート農業支援）、東部地方振興事務所農業農村整備部（農地整備事業推進）、登米地域事務所農業農村整備部（農地整備事業工事管理）			
関連事業名と役割 農業競争力強化農地整備事業（中山間地域型）			
県実施方針上の関連項目	1-(1) 先進的経営体や核となる経営体の育成及び気鋭の安定化・高度化 1-(3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化。省力化支援		
地域基本方針上の関連項目	1-(1) 先進的経営体や核となる経営体の育成及び気鋭の安定化・高度化 1-(3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化。省力化支援		

〈内部資料〉

※以下の部分は印刷製本しない内部資料とする。（計画承認のために農業振興課へは提出）

活動事項	月次活動計画												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
法人設立への支援 木村 須藤  (26日)	関係機関打合せ  1日× 2人 (2日)	専門家派遣 (中小企業診断士)  1日× 2人 (2日)	事業目論見書作成支援  2日× 2人 (4日)	資金繰り計画作成支援  2日× 2人 (4日)	定款、労務規則作成支援  2日× 2人 (4日)	専門家派遣 (司法書士、社労士)  2日× 2人 (4日)			法人登記準備支援  1日× 2人 (2日)	法人登記履行確認  1日× 2人 (2日)	収支状況確認  1日× 2人 (2日)		
低コスト稲作栽培技術の選択・導入支援 阿部 遠藤  (14日)		低コスト技術勉強会 (育苗・栽培方式)  1日× 2人 (2日)	低コスト技術勉強会 (雑草管理)  1日× 2人 (2日)	低コスト技術勉強会 (病害虫管理)  1日× 2人 (2日)	スマート農業アドバイザー派遣  1日× 2人 (2日)				低コスト技術導入検討  1日× 2人 (2日)		低コスト技術導入検討  1日× 2人 (2日)		低コスト技術試験ほ場設置検討  1日× 2人 (2日)
高収益作物栽培支援 齋藤 佐藤  (18日)	加工用トマト苗管理支援  2日× 2人 (4日)		加工用トマト定植支援  2日× 2人 (4日)	加工用トマト生育調査  2日× 2人 (4日)	加工用トマト収穫物品質調査  1日× 2人 (2日)				加工用トマト実績検討  1日× 2人 (2日)		次年度栽培計画策定支援  1日× 2人 (2日)		

	年度別成果 (成果指標における定性的、定量的目標の達成状況に係る内容を記載する。)
令和○年度	※実施した翌年度に記載する。
令和○年度	
令和○年度	

## 普及活動検討会評価表

委員名

項目と評価の視点	評価値 (1～5)	評価 (評価できる点や改善すべき点)
普及指導計画について		
検討項目 (プロジェクト課題等) No. 1 「加工用ばれいしょ生産中・長期 計画策定と生産体制構築」について		
検討項目 (プロジェクト課題等) No. 2 「農地整備を契機とした地域営農 構想の実現」について		
検討項目 (プロジェクト課題等) No. 3 「環境負荷低減型水稻乾田直播栽 培技術の確立」について		
その他 御意見、御要望やお気づきの点があり ましたら記載して下さい。		

注1：評価の視点

普及計画：①計画の設定（ニーズ、目標、活動内容）、②活動展開の方向性（支援方向、手法、関係機関や農業者連携等）③前年度までの経過や評価の反映

プロジェクト活動：①計画の設定（対象の選定、ニーズ、目標等）、②活動展開の方向性（支援方向、手法、関係機関や農業者連携等）、③目標達成程度、今後の対応策の整理

注2：評価値は感じたとおりで結構です。1（不十分）～5（十分）で記入してください。